

平成 30 年第 2 回定例会

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ特別委員会

平成 30 年 10 月 5 日

渡辺(ひ) 委員

私は、藤沢選出ですが、先月は地元藤沢の江の島で、初めてセーリングワールドカップが開催されました。この大会は、2020 年の本大会のテストマッチ、テストイベントということで初めて開催されたわけですけれども、今回の大会を通じて、明らかな課題が幾つかあるかと思いますので、その点について質問をしたいと思います。

いずれにしても、セーリングについては今年行って、来年もまたワールドカップがあり、あとは 2020 年本大会ということで、そういう意味では、課題を整理しながら進捗できる、そういう運営になっていると思いますので、この課題をしっかりと整理していくことが重要だと思いますので、何点か質問させていただきたいと思います。

まずははじめに、ワールドカップの広報について何点か聞きたいと思いますが、報告でもありました、私もイベント等へも行きましたけれども、江の島の会場付近については非常に盛り上がり、また、それ以前に辻堂のテラスモールでやったイベント等については、盛り上がったという印象があります。しかし、私は湘南台に住んでいますが、江の島エリアを離れた藤沢という観点で、盛り上がりはどうだったのかと思います。そういう意味では、ワールドカップの広報について、どのような広報を行ったかというのは先ほど報告が何点かありましたので、私自身は様々な取組を行ったということを踏まえながらも、要はなかなかそれが浸透し切れていたかったのではないかと思いますが、この点について県はどのように総括をしているのか、お伺いしたいと思います。

セーリング課長

広報についてでございます。県では、今回のワールドカップ開催に当たりまして、実行委員会はもちろん、運営に関しても連携しながら様々な広報を行いました。その結果でございますけれども、今回のワールドカップにつきましては、セーリング競技として見てみると、これまでにないほどの多くの観客が会場に足を運んでいただいたと、そのことは一つあるかと思っております。ただ、それで多くの県民にセーリングワールドカップを十分お伝えできたかというところで考えますと、まだまだ十分ではないというところもございますので、今後も広報に一層の工夫を凝らして、また機運を盛り上げていくという必要があると考えています。

渡辺(ひ) 委員

いろんな取組をやっていることについては一定の評価をさせていただきますが、更に工夫を加えていきたいということが御答弁にありましたので、それを踏まえて、質問並びに要望をさせていただきたいと思います。

地元の藤沢の方々、関係団体の一部の方から御要望があったということも踏まえて質問させていただくと、例えば街路灯にワールドカップのバナーをもっとやるべきだったという声だとか、そういう御要請があれば協力したいという

声も一部ありました。どうも会場のエリアを離れてしまうと、うまく雰囲気が伝ってこないということで、御要望があったと聞いているんですが、そのような大会を盛り上げる装飾、これについて今後どのように考え、取り組んでいくのか御答弁いただきたいと思います。

セーリング課長

会場は盛り上がっておりましたけれども、ほかのエリアにつきましては、十分な盛り上げができたかというと、まだまだ工夫の余地はあるかと思っています。そういう意味では、来年に向けては、大会を盛り上げる装飾の方法、どのような工夫をすることが可能か、これにつきましては実行委員会または藤沢市とも相談しなくてはならないことでございますので、そういったところを相談しながら、来年に向けて考えていきたいと思っております。

渡辺(ひ)委員

確かに今回、ワールドカップということで、セーリング会場では、決勝でイベントをやって非常に盛り上がったということですが、会場外には、例えばサテライトも今回設置しなかったということがあり、今後、様々な工夫が必要だと思うので、是非、御検討を願いたいと思います。

次に、ウエルカムフェスティバル、これは9月8日に地元の方々の協賛を得て開催し、私も参加をさせていただきました。これはイベント自体の内容は非常にすばらしいものだということで評価するわけですが、報告資料の中にも開催の説明の中で、外国人の選手のおもてなしをすると記載されています。私も参加しましたら、当日は数名の外国人の方しか参加しなかったのですが、これについてどのように考えているのか、また来年に向けてはどのように改善をしていくのか、御説明願いたいと思います。

セーリング課長

ウエルカムフェスティバルのことでございますけれども、関係者に話を後日聞くと、海外の選手は日本の文化に興味がないわけではないということで、様々な交流事業などもしていただきましたように、興味はあったと聞いております。ただ、開会式の時期、本番直前の時期だということもあって、選手側からすると、できるだけ練習の時間がありますとか、ヨットの準備の時間、そういうものを確保したいという思いもあって、なかなか選手がこちらまで足を運ぶことができない状況があったと聞いてございます。

ウエルカムフェスティバルの企画実施を中心となって担っていただきました江の島振興連絡協議会の方々も同じような認識をお持ちでございまして、多くのお客様に御参加をいただきましたが、外国人選手の参加が余り多くなかったことは残念だということです。来年に向けては、どのような形であれば多くの海外選手に参加いただけるのか、そういうフェスティバルの日程とか時間帯とともに含めまして、どのような方法が良いかということを実行委員会や競技団体とも相談しながら、工夫してまいりたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

是非、検討してもらいたいと思います。今御答弁があったように、時間帯も、選手からそういう要望があるのであれば、夜の時間帯にやるとか、場所も、あの場所で結構満杯でしたから、あれに外国人の方が来られたら会場があふれる

ということがあったので、あの場所でいいのかということも含めて、様々な御検討を是非願いたいと思います。

次に、開会式について何点か質問します。これは新聞でも報道がありましたけれども、一部の外国人選手からイルカショーについて批判があったというような反応がありましたけれども、イルカショーについては誰が企画して、また県は事前にその件を知っていたのかお伺いしたいのと、県としてその批判的な反応に対してどのように考えていらっしゃるのか、お願ひします。

セーリング課長

新江ノ島水族館で行われました、ワールドカップシリーズ江の島大会の開会式において、演出の一部としてイルカショーが実施されたところでございます。こちら開会式の内容につきましては、そもそも大会の主催者でございます日本セーリング連盟が決定したという形でございます。県といたしましては、開会式の内容につきましては、事前に御説明を頂いた際に、イルカショーがあったということは伝えられているというところでございました。それに対する県の考え方でございますけれども、ワールドカップのような世界中の国々から選手が集まるような大会におきましては、様々な考え方を持った選手がいらっしゃるということで、そうした方々を迎える側としましては、やはり国や文化の違いにきめ細かな配慮をして大会を運営していくということは、とても必要だということを改めて認識させていただいたところでございます。

渡辺(ひ)委員

是非、来年もあるし、本番もあるので、御検討願いたいと思います。あわせて今回、会場は新江ノ島水族館ということで、我々藤沢の地元にとってみれば、地元の施設を使っていただいて開会式ができたということについては非常にうれしい思いだったんですが、あの会場しか、あの程度の数の方々を収容する施設が周りにはないので、今回の会場は妥当だったと思います。しかし、もしイルカショーも含めてあそこを使わないとなると、屋内の大きな施設は周りには余りありませんし、離れた施設でやっていいのかという問題もあるし、また屋外の場合、荒天の場合はどうするのかという問題もあるでしょうし、開会式全体の場所も含めて、御検討を願いたいと思います。

次に、交通対策について何点かお伺いしたいと思います。

先ほど、他会派の質問の中でも、交通対策としてプロジェクトチームをつくり、今後検討していくという御答弁もありましたが、もう少し具体的に質問したいと思います。今回のワールドカップについては、特に渋滞対策を確認したいのですが、島内の駐車場、先ほど御説明あったようにディンギーとかヨットを一部駐車場に移動して、置いたということもあって、駐車可能なスペースが大分減ったと認識していますが、どれくらい減ったのか確認させていただきたいのと、そのことについて事前に広報等はどのように行ったのか、併せて確認したいと思います。

セーリング課長

今年のワールドカップにおきましては、円滑に競技を運営するために、大会に参加する競技艇をディンギーヤードと臨港道路駐車場の一部のエリアに配置しました。また、それにあわせまして、ディンギーヤードに保管していた艇の

一部は江の島かもめ駐車場に移動となりました。その結果としまして、臨港道路附属駐車場の普通車の駐車台数は320台から175台に、江の島かもめ駐車場の駐車台数、普通車につきましては503台から296台に規模を縮小しまして、全体としては352台の駐車台数が減少したというところでございます。また、大型バスにつきましても、この二つに駐車可能なスペースがあったのですが、臨港道路附属駐車場に駐車する5台分についてはそのまま使えたのですけれども、江の島かもめ駐車場にありました14台分は使えなかったというようなことでございます。こうした駐車場の不足につきましては、広報でございますけれども、これら二つの駐車場を管理しております湘南なぎさパーク、こちらのホームページにおきまして、一部休業するということを周知したというところでございます。

渡辺(ひ)委員

広報について、ホームページだけで周知できるかどうかという課題も整理すべきだと思います。観光目的に来る方は、ホームページをわざわざ見ないという課題もあると思います。もう少し広くSNS等も活用した案内だとか、若しくは周辺道路に対して何かの掲示をするだとか、いろんな工夫が必要だと思います。これは是非御検討願いたいと思いますけれども、あわせて、駐車場の渋滞状況、江の島周辺も含めて、伺います。

セーリング課長

駐車場の混雑状況についてでございますけれども、ワールドカップの決勝レースが行われました9月15日と16日でございますけれども、その日はちょうど3連休ということもございました。江の島の島内の自動車の流入量は駐車場の容量を結構上回ったようで、駐車場待ちの渋滞も発生したと聞いています。江の島弁天橋に一番近い、江の島なぎさ駐車場の状況では、10時から18時まで満車状態だったという話を聞いてございます。ちょうどお昼ごろ、駐車場待ちの自動車が100台を上回って、江の島入口信号機まで渋滞が起きているという状態でした。ほかの島内におきましての臨港道路駐車場についても11時から14時、江の島かもめ駐車場についても10時から16時、観光協会駐車場にしても10時から20時と、軒並みその日は満車状態だったということがございました。

渡辺(ひ)委員

確かに今、江の島大橋の3車線化の工事中ということで、あの橋が3車線化すれば島内の駐車場に行く路線は1個ふえるので、そのことによっても緩和はできると思いますが、実際は駐車場の容量があふれてしまえば、橋を拡幅しても渋滞緩和という結果には結びつかないと思います。それからすると、駐車場をどうやって整備していくのか、若しくは駐車状況をどうやって広報していくのか、先ほど御答弁にあった公共機関を使うということをどこまでうまく周知していくのか、様々な取組をやっていかないと、本大会までには解決しないのかと思います。更に心配なのは、今回のワールドカップは海水浴のトップシーズンが終わってからの開催でした。これが夏休みの開催の本番を見据えたときには、当然、島外の駐車場も海水浴客でいっぱいになります。さらにワールドカップで島内はもっといっぱいになった場合、車はどうするんだという様々な課題がありますが、今後の対策予定を伺います。

セーリング課長

確かに江の島島内の駐車場につきましては、特に本大会につきましては、競技会場のセキュリティエリアに位置付けられてしまうということが考えられまして、そうすると、そもそも駐車場はますます減少し、渋滞が発生してしまうという状況になるのかと思います。一方で、本大会では、島内のいわゆる観光施設とかそういったところは通常どおりの営業を行うということになってございますので、そうすると一般車両とかは、通常のときと同じように支障のないように通行しなくてはいけない、そういったことから、組織委員会に対して、江の島島内の事業者などの状況とか、そういった駐車場の利用を制限した際の、周辺交通への影響などをしっかりと考えてほしいと、そういうことを考えた上で、島民の人たちの日常生活に極力影響が出ないような形で、オリンピック本大会時の選手や観客の輸送計画をしっかりと立案してほしいと話をしています。神奈川県輸送連絡調整会議の場などを通じて働き掛けるとともに、情報提供して、一緒に考えてまいります。

渡辺(ひ)委員

今の問題は非常に大きな問題だと思います。今御答弁の中にありました、島内の通常の活動、あと営業、例えば漁業の話で、営業補償の話もこの委員会でも出ています。今議論したような問題が解決しないと、今度は営業補償の話にも発展しかねない問題なので、しっかりと様々な機関と連携して取り組む必要があると思います。是非、お願いをしたいと思いますけれども、それらの課題も含めて、更に競技団体との連携が必要だと考えますが、実行委員会として、例えば実行委員会の中に県も関与しないと、様々な意思疎通だとか重みが伝わっていかないのではないかと思いますが、そのことについて、再度御答弁をお願いします。

セーリング課長

確かに今年、私どもはワールドカップの開催に向けて、競技団体や様々な方々といろいろと調整を行ってまいりました。そうした中で、来年に向けて、ますますいろいろな調整がふえてくるだろうと考えています。特に今年は、ワールドカップはテストイベントと兼ねて開催するという形で実際実施していたのですが、来年はそれが別の大会になってしまふと、ワールドカップの調整、テストイベントの調整というのがまた発生してしまうということになります。そのため、調整はますます多くなってくると思いますので、ワールドカップ実行委員会でありますとか組織委員会と今まで以上にしっかりと連携はしなくてはならないということは、我々も強く認識しているところでございます。実際にどのような方向で連携を強化するかというのはいろいろなやり方ありますので、それにつきましては今後、実行委員会などとも調整しながら、具体的なを考えながら、実際に連携を深めるようにしていきたいと思っております。

渡辺(ひ)委員

最後に、要望させていただきます。

今、御答弁を聞きましたけれども、非常に具体的なものがあるんだと思います。地元の声をしっかりと受けていくのは我々議員だろうし、その議員の声をしっかりと受け止めていただくのが県当局だと思います。県当局がしっかり物言わ

なければ、IOCもJOCも、また様々な協会も、現状は分からぬと思うので、是非取組を進めていただきたいということも要望して、私の質問を終わります。